

「学校・家庭・地域連携協力推進事業(学校を核とした地域力強化プラン)」

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域未来塾」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

震災による児童生徒を取り巻く住環境や地域コミュニティの変化の影響は大きく、10年を経過しても解消しているものではない。そこで、児童生徒が放課後等に地域の学び相談員の支援により自主的に学習し、家庭学習の習慣形成を図ることを目指し、学び支援コーディネーター等の配置を行っている。

内容

- 1 「放課後学び教室」
開催を希望する小・中学校に対し、学び相談員を派遣し、学校単位で実施。6月から2月の期間内で、学校の実情に合わせて週1~3回実施。
- 2 「夏休み学び教室」
夏季休業中の3日間、マルホンまきあーとテラスを会場に、市内の小・中学生を対象に学び相談員や学生ボランティア等が学習支援を行った。
- 3 「長期休業中の学び教室」 夏季休業・冬季休業に開催希望校で学習支援を行った。



ポイント

- 「放課後学び教室」・・・小学校13校、中学校9校で開催。
- 「夏休み学び教室」・・・小・中学生のべ188名参加
⇒どちらも開設校や利用児童生徒、保護者等にアンケートを実施し、評価・検証を行って事業の充実を図っている。

今後の方向性

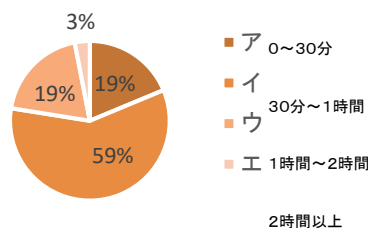
- 本事業の継続を望む声が、児童生徒保護者から寄せられており、事業終了後は地域学校協働活動において各学校で実施できるよう事業終了と準備について周知していく。

成果

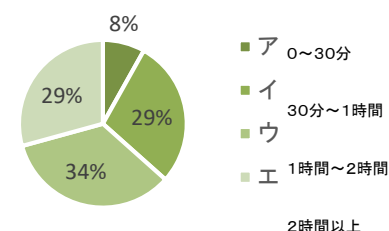
「放課後学び教室」アンケートより

- 学習意欲、自主性、相談員との関係性の観点による肯定的な回答は昨年度に引き続き今年度も8割以上であった。
- 「放課後学び教室」に参加した児童生徒は、意欲的に学習に取り組み、家庭学習の習慣化につながった。

家庭学習の時間(小)



家庭学習の時間(中)



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「加美町地域未来塾事業」(宮城県加美町)

取組の概要や経緯

学校の授業以外で学習を行う機会がない児童生徒が多く、学校以外で学習を行うことに対する指導等が、学校・家庭の共通の課題となっている。そこで、自主学習の定着や学習機会の確保等を目的として「夏の寺子屋」及び「放課後寺子屋」を実施している。そのほか、地域人材を活用し、地域及び外国の自然環境や歴史・文化を学ぶ「ふるさと寺子屋」を実施し、児童生徒の興味関心の幅を広げ、自主的・自発的な学びを醸成している。



内容

1. 「ふるさと寺子屋」

- A. 町学芸員による加美町の自然環境や歴史・文化に関する出前授業を、町内小学校6年生を対象に実施。
- B. チリ共和国出身の町国際交流員によるチリの地理・文化・パラリンピック選手に関する出前授業を実施。

2. 「夏の寺子屋」

夏季休業中の8月1日～6日のうち5日間、各小学校や公民館を会場に、町内小中学生に対して協働教育支援員及び地域の大人や学生等ボランティアの協働教育サポーターが学習支援を行った。小学生は午前の部のみ、中学生は午前の部と午後の部を実施。また、令和4年度はドローンプログラミング教室を各地区1回の計3回実施。

3. 「放課後寺子屋」

10月～2月に町内3中学校で、週1回放課後2時間、協働教育支援員や協働教育サポーターが学習支援を行った。



ポイント

- ① 「ふるさと寺子屋」…A. 5月～7月に町内小学校全8校で実施。
B. 5月～7月に希望があった町内小中学校10校で全15回実施。
- ② 「夏の寺子屋」…小学生96名、中学生60名が参加。支援員・サポーター36名で指導。
- ③ 「放課後寺子屋」…中学生のべ589名が参加。支援員・サポーター7名で指導。のべ46回実施。

成果

- ・ふるさと寺子屋…町の歴史や文化、外国の地理や文化に触れることにより、対象児童生徒の興味関心の幅が広がった。
- ・夏の寺子屋…令和4年度は新たに各小学校を会場に追加して事業を行ったため、小学生児童が参加しやすくなり、参加者が例年よりも増えた。
- ・放課後寺子屋…昨年より1か月延長して2月まで実施したことにより、高校受験直前まで学習に積極的に取り組む姿勢を継続することができた。

今後の方向性

- ・学校や参加者から継続してほしいという要望があるため、令和5年度も内容や実施回数を検討しながら実施する。
- ・参加者が増えるよう、魅力的な内容になるよう検討していく。
- ・県内の大学や近隣の高校と連携し、協働教育支援員や協働教育サポーターの確保に引き続き取り組んでいく。